

## 人権啓発事業のうちの「人権啓発イベント」の見直し案について

- これまでに「かながわ人権政策推進懇話会」や「神奈川県人権啓発推進会議」等において、様々なご意見を頂いてきた。

### <人権啓発事業全体について>

#### ○ 主な課題・論点（会議で頂いた意見より）

- ・ 差別をしているという意識のない「普通の人たち」の中に潜んでいる「同じでなければならない」という意識が差別を生んでいる。
- ・ 人権は被害を受けて初めて感じるもので、何もないときは、人権の有難さはわからない。
- ・ 「人権は嫌なものである」人権に対する無関心や理解不足から来る「触れたくないもの」「避けたいもの」という意識・イメージ（そういう風潮も時には見られる）がある。
- ・ 人権問題には「国家権力からの自由」という問題と「国民相互間」の問題があるが、これまでの県の人権啓発は、後者に偏ったものとなっている。

#### ○ 見直しのポイント

- ・ 無意識の中に潜んでいる「差別意識（差別を生む意識）」に気づいてもらうためには、どのような内容、どのような手法での啓発がより効果的か。
- ・ 人権侵害の被害を実感したことのない人、あるいは弱い立場にいない人たちに関心を持ってもらうためには、どのような内容、どのような手法で働きかけていくか。
- ・ どうしたら「人権は嫌なものである」人権に対する無関心や理解不足から来る「触れたくないもの」「避けたいもの」というイメージ（そういう風潮も時には見られる）を払しょくすることができるのか。
- ・ 人権啓発の内容に関して「公権力と国民との関係における人権問題」と「国民相互の関係における人権問題」とのバランスをどのように取り、また、「中立性」を確保しながら、啓発事業に取り組んでいくのか。
- ・ 人権教育との連携・協力、人権関係団体や企業と連携・協力した取組みを、どのように充実していくか。
- ・ 人権啓発事業の成果をどのように検証し、取組みの更なる充実につなげていくのか（PDCA）。

### <人権啓発イベントについて> ※

#### ○ 会議で頂いた主な意見

- ・ 人権課題の当事者の方々が参加できるイベントづくり
- ・ 当事者メッセージの紹介
- ・ Skype(スカイプ)、USTREAM(ユーストリーム)、twitter(ツイッター)等のメディアの活用
- ・ 各種アトラクションの工夫
- ・ プロスポーツチームと連携した取組みの充実等

#### ○ 今年度の人権啓発イベントの見直しポイント

- ・ より多くの人たちに関心を持ってもらうために、「①発信力の強化」、「②注目度のアップ」及び「③県民・当事者参加の拡大」の3つを主なポイントとして、実現可能な範囲で意見を反映し、実施方法を見直す。
- ・ 「人権は嫌なもの」人権に対する無関心や理解不足から来る「触れたくないもの」「避けたいもの」というイメージ（そういう風潮も時には見られる）を和らげるため、ミニコンサート等のアトラクションの実施、ゆるキャラ（着ぐるみ）の活用、会場全体の明るさや雰囲気配慮したレイアウト等を工夫する(人権メッセージ展)。

※平成 27 年度人権啓発イベント（開催予定日） 「 」内はキャッチフレーズ、テーマ等

◇湘南ベルマーレのホームゲームでの人権啓発（10月24日）

H25「いじめにレッドカード！退場だ！」

H26「こころのパスをつなぐ」 H27「聴かせてよ、君のこと。」

◇人権メッセージ展（12月4～7日・20日）

H25・H26「大切なあなた 大切なわたし」 H27「大切なあなた 大切なわたし」（素案）

◇ハートフルフェスタ 2015in ちがさき（12月12日）

H25「海老名から 深くつなげよう “思いやりの心” 大きく広げよう “人権の輪”」

H26「小田原から 広がる 思いやりの “心” やさしい “笑顔”」

H27「輝く笑顔を 茅ヶ崎から！」（素案）

## [主な見直しの状況]

### (人権啓発全般)

見直しのポイント	見直し状況
無意識の中に潜んでいる「差別意識（差別を生む意識）」に気づいてもらうための人権啓発の取組み	平成 27 年度：整理・議論 平成 28 年度以降：取組みの実施
人権侵害の被害を実感したことのない人、あるいは弱い立場にいない人たちに関心を持ってもらうための人権啓発の取組み	
「人権は嫌なものである」人権に対する無関心や理解不足から来る「触れたくないもの」「避けたいもの」というイメージ（そういう風潮も時には見られる）を払しょくするための工夫	平成 27 年度から実施予定 ・イベントのキャッチフレーズや会場全体のイメージを工夫 ・ <u>人権トーク&amp;落語による啓発</u>
「公権力と国民との関係における人権問題」と「国民相互の関係における人権問題」とのバランスが取れ、また「中立性」を確保した形での人権啓発の取組み	平成 27 年度：整理・議論 ・国の基本計画に沿って基本となる考え方を整理
人権教育、関係団体、企業等との連携・協力の充実	平成 27 年度：整理・議論 平成 28 年度以降：取組みの実施
実施効果の検証、検証結果を踏まえた取組みの充実（PDCA）	

### (人権啓発イベント)

見直しのポイント	見直し状況
<b>①発信力の強化</b>	
(意見) ・Skype(スカイプ)、USTREAM(ユーストリーム)、twitter(ツイッター)等のメディアの活用	平成 27 年度から一部実施予定 ・ <u>twitter、HP を活用した PR の充実</u> (過去メッセージの活用等) ・ <u>twittbot の活用</u> (利用者の多い夜間の時間帯での情報発信) ・TV 画面でのメッセージ紹介 ・ <u>著名人の HP、ブログ等</u> での情報発信の協力依頼
<b>②注目度のアップ</b>	
(意見) ・Skype(スカイプ)を活用した対談、USTREAM(ユーストリーム)での動画配信 等	平成 28 年度以降の実施に向けて検討
・各種アトラクションの工夫	平成 27 年度から実施予定 ・ミニライブ、ゆるキャラ (継続) ・ <u>ミニ手話教室 (要調整)</u>
・プロスポーツチームと連携した取組みの充実	平成 27 年度から実施予定 ・ <u>湘南ベルマーレのファン交流イベントでの啓発活動 (要調整)</u> (現在、湘南ベルマーレのホームゲームでの啓発活動や巡回サッカー教室とのカップリングでの人権教室を実施しており、さらに連携を拡大するもの。)
<b>③県民・当事者参加の拡大</b>	
(意見) ・人権課題の当事者の方々が参加できるイベントづくり ・当事者メッセージの紹介	平成 27 年度から実施予定 ・ <u>当事者のメッセージの展示 (TV 画面)</u> ・ <u>出展団体のメッセージの展示 (TV 画面)</u> ・ <u>メールでのメッセージ募集</u> 等

## 平成 26 年度第 2 回かながわ人権政策推進懇話会で頂いた主なご意見

## [人権啓発全般・人権啓発イベント]

- ・ 人権(啓発)について県がどのように考えるのかを、議論する必要がある。  
(国家権力からの自由、国民相互間の人権問題)
- ・ まず「人権についての理解」、次に「人権感覚をどのように磨くか」ということが必要。
- ・ (ヘイトスピーチに関連して、) ほとんどの日本人は、私は差別したことがないと言う。なのに「いいじゃない日本なのだから、日本人になれば」とか言う。このような人権侵害の方がはるかに深く傷つく。私は差別していないという善良で当たり前の人たちの中に潜んでいる、みんな同じでなければならないという意識というのが、外国人に関する問題では非常によく現れる。
- ・ 行政が結果的には差別をしている。朝鮮学校の補助の問題に対しても、神奈川県は、一時ストップした。人権は大事、教育でもやる、学校現場でも扱うと言っている、一番根本になる行政がそういう差別(区別なのかもしれないが)、そういうことをしている。  
それから、「同じ」と言いながら、外国籍の人は公務員になれない、選挙権がない。  
税金を納めなさいとか、義務だけはきっちりやらせながら、権利は日本人と同じように与えない。そこが問題なのではないかなという気がする。そういうものが、みんな日本人の心の底に染み付いているところがあるのではないかと。そこを払拭しなければ、全体は変わらないのではないかと気がする。
- ・ 人権は、命と幸せを守るために必要なものである。人権と健康は、大変似ていると思っている。健康というのは、普通は誰も意識していないが、病気になった瞬間に、健康は重要だ、ありがたい、というのがわかる。人権も全く同じで、被害を受けると初めてそこで感じて、何も無いときは、人権のありがたさというのはあまりわからない。(人権侵害の) 被害者こそ人権というのが良くわかるので、そういう感覚が大変重要で、単に抽象的に「人権」と言っている間は理解できるか難しいところがあるのではないかと常に思っている。
- ・ やり方については、なかなか人が寄って来ない。新都市プラザでやっている、遠巻きに見ていて近づいて来ない人が多い。(関心を持ってもらうための) そういう工夫のようなものも、一緒に考えて行ければと思う。
- ・ 人権は嫌なもの、という意識がある。
- ・ 人権について理解してもらうには、分りやすいフレーズが必要。
- ・ オリンピックを契機に「国籍を問わず個人が尊重される…」というのは、大きな目標になる。
- ・ オリンピック・パラリンピックに向けての取組みと一緒に絡み合わせると、大変、良い議論に発展していくのではないかとと思う。
- ・ 親たちの啓発、意識改革がすごく大切。学校も大事だが、家庭の一般市民の教育が大切。
- ・ 人権教育で是非検討して欲しいのが、最近話題になっているワークルール教育(働いている人の権利について、生徒たちに理解してもらうという教育)。活動している団体も増えており、一番身近な権利問題ということで、将来的に重要になってくると思われるので、そういうことについても是非ご配慮いただきたい。
- ・ 当事者と一緒に作り上げるプロセスにより、多くの人に関心を寄せる。
- ・ 人権メッセージ展は「“ありがとう”を大切に」とか「感謝の気持ちを忘れずに」とか、抽象的なメッセージになっている。これで人権をどれくらい理解してもらえるか、興味を持って来てもらえるのか。

## [その他]

- ・ やはり一番大事なのは、啓発するためには現場を知らなくてはいけないということで、みんな現場に行くという フィールドワークをするということ。

## [平成 27 年度第 1 回懇話会に向けた座長からのコメント]

- ・ 次回の懇話会、冒頭で提案した「人権がすべての人に保障される地域社会の実現をめざして」という もので、包含できるのではないかなど、それを深めていくことが、今日、皆さん方から出された問題提起と大体一致しているのではないかとと思う。